

第2回城下のまち鶴岡将来構想策定委員会（会議録）

- 日 時 令和2年10月15日（木）13時30分～15時30分
- 会 場 マリカ西館 3階 マリカ市民ホール
- 出席委員 上木 勝司委員長、矢口 哲也委員、加藤 捷男委員、上野 隆一委員、
前田 直之委員、丸山 貴光委員、宮澤 巖委員、高坂 信司委員代理、
三浦 秀人委員、伊藤 秀樹委員、佐々木 邦夫委員、阿部 貴一委員、
秋野 公子委員、大久保 紀子委員
- 欠席委員 佐藤 泰光委員、國井 英夫委員、酒井 忠順委員、山口 朗委員
- アドバイザー 東北芸術工科大学 学長 中山 ダイスケ氏
株式会社 umari 代表取締役 古田秘馬氏
内閣府 クールジャパン地域プロデューサー 陳内裕樹氏
- 事務局 建設部長、企画部次長（兼）政策企画課長（兼）酒井家庄内入部400年記念事業推進室長、商工観光部観光物産課長、教育委員会社会教育課文化財主幹、建設部都市計画課長、建設部都市計画課城下のまちづくり推進主幹、企画部政策企画課主査、企画部地域振興課地域振興専門員、商工観光部商工課主事、商工観光部観光物産課観光物産専門員、教育委員会社会教育課文化財主査、建設部都市計画課都市計画主査、建設部都市計画課専門員（都市計画係）3名
- コンサル (株)国際開発コンサルタンツ 2名
(株)山形アドビューロ 1名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 2名
- 次 第
1. 開会
2. 挨拶
3. 協議
（1）駅前地区まちづくりの方針・役割について
（2）質疑応答・意見交換
4. その他
5. 閉会

会議概要

1. 開 会

- ・都市計画課長による開会宣言

2. 挨拶

《市長》

- ・前回は、鶴岡市のまちづくり全般に関することや駅前地区の現状や課題、将来に対する期待、様々なご提言をいただいた。改めて、駅前地区の再構築の必要性を再認識した。1回目の策定委員会以降、皆さま方からのご提言を踏まえ、アドバイザーである中山ダイスケ先生を中心とするプランニングチームの皆様と協議をし、市役所内のワーキングを重ねてきた。本市全般の課題や、アフターコロナといった観点も含めた今後の生活の変革の整理をし、その上で鶴岡地区の現状と将来について分析を進めてきた。
- ・本日は、これまで整理してきた内容について、事務局から説明をいただいた後に、中山ダイスケアドバイザーと、オンラインでご参加いただいているプランニングチームの皆様より核となるまちづくりの方針の考え方をご提案させていただく。今後駅前地区の機能のゾーニング、あるいは施設整備や土地利用の方針を検討していく上で、駅前地区のまちづくりの方針や在り方などのビジョンを固めていくためには、本日の議論は大変重要な議論であると考えている。
- ・委員の皆様からは忌憚のない、闊達な意見交換をお願い申し上げます。

3. 協議

議長：委員長

《委員長》

- ・新たに委員になられたお二人には、どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ・第一回委員会から早3ヵ月が過ぎたが、コロナ禍の災厄は依然として治まる兆しを見せていない。コロナ禍の試練は、国際的なサプライチェーンの混乱や各種国際機関が支えてきた世界秩序の揺らぎなどと、これまで築かれてきたグローバルな社会秩序が、地域社会の在り方にも強く影響する、意外な程の脆弱さを抱えていることを露呈させた。
- ・庄内地域は奇しくもこうした状況下で酒井家入部400年という時を迎え、そして本委員会は鶴岡市の将来像の模索といった作業に取り組んでいる。
- ・本日は中山先生率いるプランニングチームから「鶴岡駅前再生に関わるビジョンとコンセプトづくり」に関わる素案をご説明いただく。
- ・本日の審議はフリートーキングの形で進めさせていただくが、プランニングチームの今後の検討に資すべく、委員の皆様には率直なご意見、ご感想を披露いただき、素案の揉み上げに協力していただければと思う。

(1) 駅前地区まちづくりの方針・役割について

… 第1回委員会とその後の経過、駅前地区の状況についての説明 …

<アドバイザー>

- ・まず、プランニングチームがどういう経緯で議論してきたか、配布した紙を見てほしい。
- ・客観的な視点からこのまちの中心市街地を調査させていただいて、当局から調べていただいたことを踏まえながら意見を述べさせていただきたい。
- ・市街地の衰退は全国で起こっていて、シャッター商店街も同じである。原因は街が郊外部に移っていく中で駅の役割が薄れ、電車に替わる交通機関が発達することで駅への用事がなくなっていく。駅前商店を利用するために使っていた人も、商店が郊外に移っていくと、駅に行く用事も消えていく。
- ・そんな中で市からのミッションは、老朽化した施設をどうするのか。マリカをどうするか、ジャスコ跡地をどうするか。FOODEVER という商業施設、世界中からやってくるお客様を当てにした、食の都鶴岡の象徴的な施設をどうするか。施設の前にそもそも駅前をどうするかという話があった。FOODEVER は、閉店という話もあったが継続するというので、観光客のミーティングポイントとしてそこでいいのかという話もある。
- ・また、駅前の利用者と駅を利用している人は違う。駅を利用している人は誰かというのと、700 人近い高校生であり、しかも色んな高校があって、色んな高校生が混ざって使っている。まずは、そこを一番使っているのは、高校生だということ。
- ・皆さんが当て込んでいた観光客はどうかというと、数は減っていないが、鶴岡への入口は沢山ある。高速道路もあれば、空港もある。空港から降り立った人がバスで駅に来ることもあるが、大した数ではない。観光客は減らずにいるが、駅を一番日常使っているのは、高校生であるということがポイントだと思う。
- ・城下のまち鶴岡の将来構想なので、駅前をどうするかという話でもないという話にもなっていて、さらに広く話さなければならない。市として、まちとして、将来に向けてどうしていきたいか。何を一番大事にしていかなければならないのか。高齢者、災害対策も大事、商業施設の復活は本当に無いのかと商売をされている方はそのことを一番に思うだろう。人が集まっている場所はどこなんだろうか。
- ・一番集中してお金を掛けなければいけない、もしくは集中して考えなければいけないという考え方を基に、「何か施設を作ろう」ではなくて、ソフトとしてのまちの「ここはこういう人を育てるところにしよう」、「ここはこういう人を増やすところにしよう」という全体感の中で駅前を考えてはどうかというのが最初のポイントだった。
- ・詳しくはアドバイザーが 2 人いる。1 人は陳内さんで IT が非常に強い人である。内閣府のクールジャパンの委員をされている。世の中がもっとデジタル化していく中でどういったサービスが生まれるか、何を合理化できるか等、DX がもたらす未来というのを色んな市町村とアドバイザー契約を結んで進めてらっしゃる DX 家の専門家である。今デジタル庁が出来ると言われているが、そこに引っ張られる前に、こちらのアドバイザーについてもらっている。
- ・古田秘馬さんはプロジェクトデザイナーで、最近すごく引っ張りだこな方である。色んな地域やコトのデザインに携わっていて、特に食が強い。新潟の食や、香川県ではうどんの街として知られているが、そこに外国人をどうやって呼んでくるか。地元の方にとってソウルフードであるうどんを、どう観光資源にしていくかに取り組まれている。全国色んなところで、古田さんの手掛けたお仕事があり、色んな場所の問題、共通の問題に非常に造形が深い方である。
- ・それぞれ地域を面白くしてきた方、デジタル化を進めてきた方のお 2 人からも後でご

意見いただく。我々プランニングチームとしては、高校生がつくるまちづくり、高校生とともに駅前をどうしたいか考えてみる。それは何になるか分からないが、高校生みんなで駅のことを作っていく様子を報道してもらいながら、高校生が作っていくまちのビジョンを大人たちが助けていくことは出来ないか。高校生は入れ替わっていくが、高校生が引き継いでいけるものは出来ないか。具体例は色々考えてみたが、今回はちょっと大きく、高校生をターゲットにした、あるいは高校生によるまちづくりが可能かどうかというところを考えていただいて、さらに詳しいプランニングの内容に詰めていきたいと考えている。では陳内さんからお話いただく。

<アドバイザー>

- ・食文化の都市でもある鶴岡が駅前の開発に留まらず、駅前の役割を再定義したときに、高校生をターゲットにしてはどうかというご意見がある。私の立場は日本全国の地域の皆さんが光り輝く未来をつくるためにはデジタルが必要だと思っている。デジタルは世界中の人間が身に着けた武器である。日本では、一部の人が使い慣れていないことが物凄い伸びしろになると思っている。地域×デジタルは高齢者でも若い方でも全員が恩恵を受けていることになる。例えば、スマートフォンは60代の方でも7割に普及していて、日本全国の80%が使っている。スマホを持っていない方でも街の中にインターネット回線が引かれて、苦手な方も自然に恩恵を受けられるようになってくる。今回の再開発も単なるハードな昔ながらの開発にせず、鶴岡の皆さんの幸せづくりをするためには、別に難しいものを覚える必要はない。自然に、快適で便利なまちになるためにインターネットの活用という観点で今までも議論し、これから具体化するときに、色んな事例や、どうしたらいいんだというところをアドバイスさせていただく。
- ・デジタル庁を菅総理が政策の柱として掲げているが、デジタル化する一番の目的としては、市民の幸せづくり、皆さんのお立場もお仕事なり、生活なり、誰も見捨てられないためだ。10年前なら、こんなこと考えなくても良かったが、今は考えないと良いまちづくりが出来ないと思う。今は総論だが、これから各論に落とし込んでいくときに、どんなまちづくりをするにせよ、特に高校生に注目する必要がある。彼らはZ世代と世界中で言われているが、生まれたときからインターネットがあった。靴紐を結ぶより先に、両親のスマホのパスワードを開けることを覚えた世代で、彼ら彼女たちは当たり前に使っている。苦手な高齢の方に高校生が説明してあげて、そこから交流が生まれる。
- ・もしくは交流人口、外国の方がコロナの終わった後に美味しいものを食べに来るだろう。さらに日本中の方が素晴らしい鶴岡を訪れたとき、結節点となるのは駅前である。交流人口の要、入口であるとともに、インターネットと非常に相性がいい。そのようなことを私は話した。是非、今後とも有識者の先生方、みんなで考えるまちづくりをしてほしい。私はよそ者だが、鶴岡の皆さんの魂をデジタルで上手く活用していきたいと思う。今後ともよろしくお願い申し上げます。

<アドバイザー>

- ・これからのまちづくりにはデジタル化は必須であるということ。科学技術の浸透によって、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念を指すデジタルトランスフォーメーション（DX）は全員が恩恵を受けられる。DX化、デジタル化を外してまちづくりは語れないということを陳内さんは語ってくれた。どう使うかは

どういうまちにするかによるので、基本的に科学技術が全てを叶えてくれるわけではないが、同時に考えていかなければならない。

- ・まちづくりの主役は誰であるか。今までは行政が主導したり、大きな商業施設が主導して街を作ってきた。駅前には JR が駅の周辺の施設を作ってきたが、街をつくる主役を市民にし、市民の中でも高校生にするというのが果して上手くいくのかどうか。それに近い事例を全国で見て下さっている古田さんにお話を伺いたいと思う。

<アドバイザー>

- ・色々な地域でプロジェクトを作っている。朝大学という、朝だけの大学をつくっていて、10年目を迎える。全国で2万人いて、朝出勤前にやっていくような活動を作っている。讃岐うどんの専門役になっていて、海外の人達にうどん文化を伝えるようなこともやっている。
- ・全方位に向けてやれることはない。特に色々な地域であるのが、全員を満足させるようなものを作ろうとした結果、結果的に誰の為のものでもなくなってしまうものが多い。岩手県紫波町のオガールという体育館があるが、バレーボールに特化したことで、日本中の実業団がそこに来る。あれが普通の体育館だったら、全国からは来なかった。
- ・今回、高校生という1つのトピックに特化したのは、高校生は地域に大学がある高校生は地域の大学に行くという人もいるが、一度東京や大阪などの都市に出てしまとなかなか戻らない。何故かという、地域で自分が描く世界、この地域には可能性があると感じないまま育ってしまっている。今、多くの地域で若者が戻ってきた場所の特徴は、外に出ていく前に、既に地域で活躍できる土壌を知っている。または、若い子たちが挑戦できる土壌を既に作っているところは、積極的に若い人たちが入っていくようなイメージになっている。今回、駅前というよりは、多くの皆さんが関わって作っていくものに、誰のために、何年後の鶴岡を作るのか、目先の今必要な機能が欲しいのか。10年後、20年後を考える。どこに特化するのか。潤沢な予算や潤沢な人口がいる都市ならば、色々な形でもいいと思うが、そうではないエリアで戦わなければならない。色々な賛否両論があったとしても特化していくことが重要なポイントになると思っている。我々は「UDON HOUSE」という讃岐うどん専門の宿のもとで、突飛な観光だが、それがきっかけで話題性が出るので、多くの人を訪れるきっかけに繋がる。その地域にある他のいい物にも気づいていただけるということで、まずどういった中身がいいか、話題性も含めて、地域内外に発信させていく必要があると思う。

<アドバイザー>

- ・大きなところで2人に担当分野から話をいただいた。古田秘馬さんが話していた丸の内朝大学というのは、ずっと続いているプロジェクトである。東京も常に栄えている訳ではなく、平日の昼間しか機能していないまちもある。物凄く地価が高いため、丸の内三菱地所が持っている沢山のビルをちゃんと生かすには、皆さんが出勤していない平日の朝の時間を活用しようではないかという発想から生まれたものだ。地域地域に、必ず空洞のような時間やスペースがあるので東京の中にもそういうものがあるという事例だった。
- ・こんな形で3人と市の事務局とお話をする中で、やはり高校生主体で何か出来ないかとなった。例えば、学校の枠を超えた部室のようなものだ。今、古田さんの話にもありましたけれども、放課後の高校生全員が集まっても700人だが、そのお友達が集まって500~1000人位の規模の高校生の集まれる場所が作ってあげられないかと

思っている。当初は、JAさんの農業倉庫を見学させていただいて、こんな大きなところがみんなの放課後の校舎だったら良いとも考えた。

- 考え方はここにもあるが、令和の藩校である。この地域の大きな学校、器みたいなのを作って、大学から出張授業をしてみることも可能だし、商売されている方から鶴岡のまちの話を生徒たちにしてみることも出来るかもしれない。まだ、本当に絵空事だが、各高校、教育委員会と上手く連携すれば、今まで他の地域には絶対実現しなかった大きな高校生たちのたまり場が出来る。親も「あそこに溜まるなら許せる」と言ってくれるような場所になればいい。みんなが集まるゲームセンターのようなものを、高校生たちが作り上げるプロジェクトのようなものに書換えて、高校生で賑わっている駅前に、時々いらっしゃる観光客がそこで出会って、そこから高校生が考えるおもてなしの何かが生まれませんか、良い事しか考えてないがそういうことを想像している。
- 多くの高校生が大学進学等でこの地を離れるが、彼らにとって、帰ってくるべき場所が単なる実家だけではなくて、駅前にも帰ってきてほしい。そこで後輩に対して、外から見た鶴岡の良さを教えてくれるようなことになったら良いと思う。もちろん、若い人が集まるので、事故や悪いことが起きるかもしれない。上手に新しい溜まり場が出来ないかと思っている。そこでしか使えない高校生ならではのデジタルの使い方、デジタルの活用が行われることで、この鶴岡の街全体がデジタル化の実験室にならないかと思っている。他の事例が無いが、こんな風になったらいいなという夢を1番最初に描かなければならないのが鶴岡ということになる。前例がないので一生懸命プランニングするしかない。そんな夢を語っているプランニングチームの構想に、ご意見をいただいて、そのことから進めていければと思う。皆さんからご意見いただきたい。

(2) 意見交換

《委員長》

- 高校生、デジタル化、市構想全体の中での位置づけといったことをキーワードとして検討してゆくということです。皆さんの率直なご意見をいただきたい。駅前開発のコンセプトの素案という位置づけで出されているので、出来ればこれを揉み上げる形で、プランニングチームのさらなる検討の一助となるような議論が出来るとよいと思う。

《委員》

- 大変素晴らしいお話、ありがとうございます。6割7割の高校生が利用者ということで、残りの利用者に何をしたらいいのかという考えしか持ってなかった。黙っていても来てくれる庄内の高校生にターゲットを絞るとするのは逆の発想で、頭の中を殴られたような感じだった。
- 今、山形県に未来企画推進部小林部長が4月から来たばかりだが、デジタル戦略構想というのがあって、地方と首都圏、あるいは地方と世界を繋いでいこうということを実現させたいと打ち出している。例えば、鶴岡に世界と常に繋がっているところがあって、別に世界に行かなくても、鶴岡の駅前行けば世界の人たちと話ができるということが出来ればこれは本当に夢のような話だと思う。そして、将来、その人たちのところに行ったり、あるいは中央で活躍しても、鶴岡駅前に戻ってくれば、また世界と繋がれるという場所があれば、子供達に対してすごく夢を持てる良いプロジェクトになると思う。周りの大人が考えるが、高校生たちがどういうまちにしたいか、

どういふ駅前なら自分達が使いたいかを聞きながら出来たら、すごく良いまちになると思う。

《委員》

- ・大変、面白い話だと聞いていたが、大きな開発をするには、大きな投資が必要だ。高校生が大きな位置づけを占めるというのは理解出来た。一定の配慮があつて然るべきとは思ふが、全てが高校生で地域開発が成り立つものでもないだろう。
- ・新しい代替案があるわけではないが、1回目の会議で資料について述べた。そういうような類のお話は私もさせていだいた。
- ・新しい物を狙うというのも1つの在り方だと思ふが、全国で駅前の再開発を経験された都市はかなりあるはずである。その中でこれはという物を参考として出していただけると物事が非常に考えやすくなる。別に真似をしようということではない。考えやすくなるということだ。考えやすくなることがないと、具体的なアイデアも出てこない。

《委員》

- ・今回、プランニングチームでご議論いただいた中身について、一定程度の理解はある。ただ、2点だけ、ここは再度議論を重ねる中でお願いしたいことがある。
- ・高校生をターゲットにした取り組みを進めるということで、確かに、今まで高校生は点と点の移動でしか無かつた。新しい視点もありではないかと思ふ。地元への愛着が湧いてくるとも思ふ。
- ・一方で、観光で鶴岡を訪れる方も少なからずいる。駅前を観光の玄関口としたイメージも是非プランニングに取り入れてほしい。駅前にはマリカという商業ビルがあるが、観光の玄関口だと分かりづらいところがあるので、何か斬新なことをやっていただけたらと思ふ。

《委員》

- ・高校生が6割使っているということで、高校生をメインとした中山先生のプランは私にとってジャストミートだつた。今の子供達は、誰か見ているところでなければ勉強出来ないので、子供達が勉強しやすい場所を作ってあげたい。今年はコロナで出来ないが、昨年度の酒祭りはすごく賑わつていて、駅の利用もすごく多かつた。新しいものを建てるのではなくて、今あるものを使ってイベントを催したらいいと思ふ。
- ・私は高島町の出身だが、高島町の駅前や高島ワイナリーの前で、最初に置賜農業高校が自分達で作つた野菜やまんじゅうを売つていた。高校生が自主的に、意欲的に売つており、子供達が社会の一員となるための勉強をしている。将来、ずっとお仕事をしていけるような状態を作れているのではないかと思ふ。そこから波及して、高島高校、南陽高校がイベント等に参加するようになった。
- ・古田さんがおっしゃるように、今鶴岡で問題になっているのは、高校生が大学や県外就職して帰つてこないというのが一番のネックだと思ふ。その子供たちが、ここでイベント、部活等をする事によって色々な人と関わつて、楽しいことをしたら、自分達がふるさとを思い出したとき、帰つてきやすいのではないか。未来を担う高校生に夢を抱かせるのはとてもいいことだと思ふ。

《委員》

- ・中山先生から素晴らしいご提案があった。高校生をターゲットにした発想についてはなるほどと思う。人口減少がすごい勢いで進んでいて、一旦、都会に出てしまうと中々Uターンが難しい現状下にある。都会での生活では娯楽や施設、イベントが沢山あり、美術館、博物館も身近にある。ふるさとに帰ってきたとき、夜になれば閑古鳥がなくような街並みなので、そうした点から、若い人がどんどん流失してしまう現状が顕著にある。その若い方々をいかにふるさとに戻って来られるかという駅前開発で高校生をターゲットにする。高校生の時代から鶴岡の良さを植え付けていく。鶴岡にもいい企業がたくさんあるのに、高校生や親御さんも認識が足りない。そうした面から、高校生をターゲットにするというのは非常に良い。
- ・駅前は観光の拠点地区であることも忘れてはならない。鶴岡市は今後、インバウンドがどうなるか分からないが、観光を標榜している鶴岡市なので、観光資源は沢山ある。観光の玄関口であるという認識は必要だと思う。
- ・駅前北側に工業団地が隣接している。工業団地のこれからの在り方を、どのように関連させていくのか。4,000人の雇用があり、鶴岡にとっては大きな雇用の場を担っている場所である。最近、工業団地の出張者が非常に多い。その人達がホテル宿泊、周辺の飲食業に非常に貢献している。その点を、色々な面で考えていただきたい。

<アドバイザー>

- ・皆さんご意見ありがとうございます。決して、高校生に特化することは、観光やこれまでのことをやらないということではない。
- ・デンマークのサムソ島という小さな島がある。今から15年ほど前に、島民全員でお金を出し合って、島のエネルギーを全て自然エネルギーの島にすると決めた。7年間で全部自然電力となったことですごく話題となって、世界から目を向けられ、その地域の農産物はブランド化した。私もその島を訪れたが、その時は、観光の窓口があって、その取り組みを紹介する窓口にもなっている。今回、高校生の場所を作ることがイコール観光の窓口が無くなるわけではなくて、むしろ高校生たちが観光の受け入れとなってくれるという側面もある。場所を作ってあげるという上から目線ではなく、むしろ高校生に鶴岡市の未来を作ってくれという思いで臨む。世界的に見れば17歳のグレタさんが世界を変えるような行動をしている。高校生だからということではなくて、今一番勢いが良い地域で活動ができる層である高校生、しかも駅を一番使う人達に、自分達で使える代わりに観光も考えてもらおうという、その取り組み自体が今回の目玉になる。この地域で掲げる良さのようなものが伝わるといい。
- ・ブータンは世界で一番幸せな国で、GHP（国民総幸せ指数）が高い。そういったことを発信していたブータンは、観光案内所が良いわけでも、料理が美味しそうというわけでもなくて、国民の幸せが一番だということによって人が集まる。今回我々がお伝えしたかったことは、具体的な中のソリューションや機能というのは、時代によって変わる。観光シーズンはもちろん観光の受入が必要かもしれないし、平日に必ずそこをしなければならぬかは分からない。
- ・大事なことは、鶴岡市が未来を支える子供達に全面的にこの場所を与える。彼らが挑戦する場所を作る、その姿勢が話題になり、そういった姿勢を見に行きたいという人達が来る。その人達に高校生たちが鶴岡市の歴史や食文化を繋げていく。そういう風な媒体役となることでまちを盛り上げていく。そうすると、卒業した子たちが東京へ出ていっても地域を語れる。その子がまた、帰ってくる。そういう取り組みから、象徴としての駅前になるということなのではないかと思う。

《委員》

- ・このマリカの副理事長をしている。事務局から議事録をレジュメと一緒に事前に配っていただければ非常に理解が進むのではないかと思う。次回からあわせてよろしくお願ひしたい。前回は非常に良い意見が出ている。

《委員長》

- ・議長確認による議事要旨という形で、事務局と検討させていただきたい。

《委員》

- ・先生方からも多角的かつ世界的な視点、もしくは若い世代が中心になるというご指摘はまさにその通りだろうと思う。老人ばかりのまちでは活気がなく、未来がない。
- ・私は、ここの再開発を経験した民間人のひとりで、当時 32 件あった民間が 3 件しか残らなかった。今、33 年経って現状となるが、この間だけでも 50 万人も人が来た。
- ・この未来を描く目的は何だったのか。城下のまち鶴岡を未来に向けて再構築することである。第 1 点の目的からすると、目標が必要なのではないかと思う。具体的な目標であり、例えば鶴岡の場合という風に考えるだけではなく、庄内一体という考え方が必要ではないか。酒田は港町の要、本間様がいて、商人のまちで日本一である。鶴岡は庄内藩の城下町で未だに酒井家がいる。唯一、400 年残っているのはここだけだ。そういう観点でまちづくりを考えると、第二次鶴岡市総合計画でも、しっかり「創造と伝統のまち 鶴岡」ということで、歴史・伝統・文化を大切にしていって、誇りを持てるまちづくりという観点がはっきりしている。地元でも視点としては、酒田は 1 つの見本だと思っている。庄内は 1 つだ。まちづくりの方向性が酒田は、図書館を街中から駅前に置いた。城下町らしい、コンパクトシティであるべきだと思うが、歴史と文化を大切にするような建物をハードに加えていくべきだ。もしくは、従来のものを大切にしていって、視点もとても大事である。
- ・NHK で宇宙飛行士の毛利さんが「人間は短期的には宇宙で生きていける、しかし長期的には、芸術と文化、笑いがないと生きていけない。」という。これはまさしく、人間が地方で豊かにどう生きるか。その視点は、先生方がご指摘のとおり、若者に食・文化・歴史を融合した形で未来に繋げて、交流という繋がりを持って生きていける。食・文化・歴史を若い人達に繋げるには、日本の民族学の山口先生、中牧先生によれば人類には約 50 億の資産がある。そういうもので生きてきた人類の文化を一回整理して繋げていって、それを子供達に、高校生にという場をもう一度表現してみる等、そういう具体的なことも含めて、駅前に目標が大事だと思う。
- ・やっぱり、鶴岡は全体としては 200 万人、駅前に 100 万人くらいの目標を掲げて、交流人口を増やしていく。もちろん、地元の高校生も行事も含めてだが、そういう視点は目標に切り替えていくと、どういう施設で、どういうソフトとハードが使えるのか。ハードは今のものを生かさないのか。そういう視点も出るのではないか。200 万のうち、残り 100 万は歴史と文化、やっぱり城である。鶴岡の平城を再現して、設置して 40 年となる図書館を分離して、一方を駅前、もう一方の郷土資料館を博物館と合体させて、城の中に作る。あるいは、鶴岡の一部に迎賓機能を作って、国内外の来賓をおもてなしして、文化を体現するようなものがある。そういう施設にして、食と文化と歴史を位置付けてはどうかと思う。是非、先生方のご意見を賜りながら、もう一度やり直せば、100 万人、200 万人が集うと思う。酒田と一緒にあれば素晴らしい将来作りになると思う。

《委員》

- ・中山先生のお話を聞きながら思い出したのだが、私が携わらせていただいている街で人口減少の調査をしている。そこでは、高校・大学を卒業した年代の人口が一気に減り、あとは基本的にずっと同じである。鶴岡でも皆さん感覚的にはそのように感じておられるのではないかと。1つの原因として考えられるのは、良い大学に入り、大きな会社に雇われるという価値観を教育として教え込んでいるからではないか。良い大学に入ると、そのような大学のある大きい都市に移転してしまう。また、大きい会社のある大きい都市で雇われて働く。そのような価値観を否定するわけではないが、そうではない価値観も子供たちに提示するべきではないか。事例として2例、紹介したいと思う。
- ・起業教育に非常に力を入れている夕張市では、高校生起業教育プログラムを長年行っている。夕張高校の生徒、市役所の職員も一緒になって、ビジネスの勉強をしている。まちとしてもプレゼンテーションを行ったりしている。効果としては、起業など全く考えていなかった学生たちが、少し考えるようになってきているようだ。
- ・岩手県八幡平市で起業志民プロジェクトというものをやっていて、起業を目指す方のスパルタキャンプというのを、市のお金を使ってやっている。そこを卒業して、起業する方たちに対して、5年間無料のシェアオフィスを割り当てたりしている。素晴らしいのは、そのキャンプを卒業した方が起業に成功して、その方たちが次の子供達を教えているという二重三重にもなっていくことである。
- ・観光という話もあったが、高校生に対し観光についてのビジネス教育をしていけば、今後彼ら若者が観光ビジネスを担ってくれる将来も描けるのではないかと。

《委員》

- ・中山先生のお話を聞いてドキドキした。私が高校生だった頃はバンドが流行っていて、これを発表する場を探すのに苦労した思い出がある。自分達のエネルギーを発散する場所を探していて、ポテンシャルのある年代だと思う。自分達の思いを発表する場が加わると良いと思う。
- ・藩校というと、色んなことを教わる場所というイメージを持ちがちだが、集まることで会話をして、次の世代がどうしたらいいのかというのを一緒に考える場が生まれれば良いと思う。我々の同級生は、親も兄弟もいなくなり、鶴岡に縁がなくなってしまった同級生が何人かいるが、大きな同窓会で帰ってくるというのが何回かあった。そういうのを考えると、1つの高校だけでなく、全ての高校が駅前を通ってくるというのがすごく良いと思う。色々な思い出も出来る。
- ・テーマとしては、何か教わるだけでなく、衣食住だけでなく、政治や宗教等何でもよく会話できる、しかも発表できるような施設があると良い。それはこんな親父が考えるのではなくて、高校生が楽しくなるようなものを考える、有意義な場所になってほしい。

《委員》

- ・私は高校生というキーワードを聞いてびっくりした。前回の会議の資料をいただいて、私の考えていたことは的外れだったかと思った。
- ・駅に高校生の居場所や活動する場所があるのは大賛成である。小さい頃の停車場は、どこかに繋がる、都会のにおいがするような夢のある場所だった。そこは、市民が好きな場所であり、2番目として観光場所であると思う。

- ・夢のような話だが、駅に繋がっている建物があって、その建物の中には宿泊施設と鶴岡の銀座通りにある店舗のブースのようなものがある。市民も、旅人もそこから市内に出れる。また、繋がってレストランや、高校生の居場所がある。
- ・どうして今の高校生は家で勉強できないのか考えてみたが、勉強は孤独なので、みんなの力を借りてやっているんだと感じた。
- ・鶴岡は、老若男女がみんな中心に居場所のある町なので、駅と市内を繋ぐということを考えてほしい。

<アドバイザー>

- ・高校生ということ以外に重要なポイントとしては、過度な設備投資をしないでやっていくということである。業者さんが入って、物凄く綺麗なデザインの建物が出来て子供達が入っていくというお遊戯ではなく、大人と子供、みんなで創っていく。美術の延長になったり、大学生と関わったり、年配の大工さんと関わったり、そういうような形で、みんなで次の世代をここで育てていくんだということが1つのポイントになっていく。
- ・我々が地域でプロジェクトをやっていくとき、どうやって皆さんと絡んでいくか。こういうプロジェクトの場合、高校生が「自分達に関係ない」となった瞬間に計画がパアになってしまう。だから、皆さんでやっていこう。次の世代もみんなでも応援しながら、という雰囲気を出していく。建物がどうではなくて、プロジェクト全体を市民の前にもっていくことが重要なのではないか。そういった発想をやっていった鶴岡の駅に外から多くの人達はその取り組みを見に来ると思う。

《委員》

- ・今日の話は時間軸の話なのではないかと思った。高校生というキーワード、令和の藩校というキーワードが出て来たが、次世代、30年後とか60年後くらいまでを考えている時間軸をデザインしていこうという意気込みではないかと思って聞いている。
- ・まちを使って、高校生（次世代）を育てる。一方で高校生（次世代）がまちを育てる。双方向の関係を鶴岡市内駅前で作れるんじゃないかという提案ではないかと思う。そうであれば、すごく良い提案だと思う。今はプロジェクトの長い時間軸の一番取り掛かりの部分なので、これをどう持続的に転がしていくかということが今後、検討されてもいいのではないかと思う。
- ・時間軸を未来で見て来たが、今までの歴史を振り返ってみると、城下町ということで、それなりの歴史・文化・伝統がある。鶴岡が持つ、正当性、真正性を大事にしている。本物・真実を英語でいうと「authenticity」という言葉があるが、皆さんがそれを大事にしていかなければならないと直観的に思っているのが感じられた。通してみると、過去から現在に繋がっているのと、そこから次世代に、どういう風に繋がっていくのかを駅前のまちづくりということで、空間的な話と時間的な話を混ぜて、議論できたら良いのではないかと聞いていた。

<アドバイザー>

- ・皆さんの発言で、高校生という対象に対して、比較的賛成されていて、かなり深掘りされていて、前向きな発言が多いと感じた。私の立場では「×デジタル」というのが非常に相性がいいと思った。インターネットを一言でいうと、繋ぐという記号である。世代や地域を越えて瞬時に地域のことあるいは高校生のプロジェクトごとの活動を

HP、動画、スマートフォン、Wi-Fi など色々、媒体はあるが、瞬時に伝えることができる。なので、これから作られる鶴岡モデル、駅前の再開発を全国から視察に来るようなプロジェクトに仕立てられたらいい。年間 52 週あるが、文化祭的に毎週プロジェクトをインターネット上で表現していく。高校生のショーにしていく。それを応援する観光客含め、プロジェクトごとにサークルを作ることは容易に出来るのではないか。

- ・私も日本全国で地域を応援しているが、そこを具現化している地域は日本にはない。モデルとなる、これからワクワクするまちづくりをしてほしい。デジタル庁が出来るので、日本全体の国づくりを変えるモデル地区となるうる活動だと思う。高校生というので、少し有名になったのが、福井県鯖江市の JK 課で、珍しい活動なのだが、再開発とは関係のないものである。そこまで広がりを見せてはいない。非常に息の長い、日本を代表とするようなまちづくりの事例になるだろう。是非応援していきたい。

<アドバイザー>

- ・皆さんご意見ありがとうございました。高校生を主語に語っていただいたが、高校生は単なる切り札である。高校生を育てたいというのがまちとしての思想としてあって、高校生を育てる拠点にしながら、そこに必要なものを考えていかなければならない。ちょっとネガティブなことを言うと、僕ら駅前の再開発は失敗していると言い切っていた。出羽商工会の会長からあった、全国で先行事例はないのかということについて、私が知っている限りは病院の誘致、スタジアム等のスポーツ施設を連結させたとかハードにお金をかけて、駅前を別の様式に変えていったものはあるが、ソフトから変えていった例は見当たらなかったもので、調べてみる。あと、駅前から商店街は割とシャッターが閉まっているエリアまで含めて、高校生が面白く使うことで、新しい商業が生まれないかと思っている。例えば、図書館を改築しなければならないというときに、どうしても図書館は何十億円もかけたビルディングを作らなければならないと想像してしまうが、使わなくなった空き店舗を図書館として活用できるのではないか。本屋さんのような図書館になっていって、デジタル化されたアプリや、スマートフォン、カードで色んなお店から借りれることになる。図書館のセクションとセクションの間の空いてるところにカフェが出来る。それを民間に委託すればいい。空いたところを図書館にして、古くなった図書館施設を解体してしまえばいいのではないか。
- ・当初、市長から駅前のお話をしていただいた時に、基本的に私の再開発の考え方は「人が使わなくなったのなら、木を植えてほしい。」ということだ。無理矢理使うのではなくて、人が使わない場所は木を植えて、空いてる空き地は全部地球に返してしまえばいいと思っている。古田さんが「過度な設備投資ありき、予算を使うことありきで考えるのではなくて、空いたところに何か必要なものを上げていったらいいのではないか」そういう考え方もある。
- ・町内会の阿部さんがおっしゃったように、部活動の発表の場所もあるだろうし、伊藤さんから文化の話もある。芸術と文化がないと、本当に若い人の用事は生まれえない。ゲームやデジタル、遊びも 1 つの文化である。歴史と文化を調整できるそこには、きちんと学びもあり、感じるものもあるという芸術を持ち込んだものになっていけばいいと思う。活力は高校生頼みだが、今は大人が考えている。だいたい大人が考えた高校生向けのものとか、子供向けのものはあまり面白くない。ここで、高校生の同意がいただければと思っている。これから高校生たちと絡んでいく。本当

の生の声を色々な高校にアプローチして、高校生たちと一緒にワークショップして駅前のことを考えていきながら、進めていければと思っている。

- ・何となくぼんやりと背中を押していただけたらと思ってよろしいだろうか。

《委員》

- ・簡単に質問だが、タイムスケジュールと予算という実行性の問題については、中間なので具体的な検討まで至っていないと考えるが、市はどう考えているのか。

《委員長》

- ・まだその段階ではなく、なお基本的な議論を進めた上で、そうした検討に入るものと思う。事務局いかがか。

《事務局》

- ・この委員会については、これからもう3回ほど実施する。本年度は2月の予定で、令和3年度でもう2回ほど予定している。まちづくりの方針を固めていく流れをさせていただきたい。それをもってどのようなまちづくりになるかというのは基本計画等々に移っていくかと思うが、その時点で初めて、事業の関係が見えてくると思う。今回の策定委員会については、まちづくりの方針、整備計画等を示させていただければと思っているので、ご理解の程よろしく願います。

《委員長》

- ・せっかくなので、三浦委員、佐々木委員からのご発言をいただきたい。

《委員》

- ・私は工業団地に40年近く勤めていた。今、工業団地は4,000人まで増えている。その4,000人をうまく使えば鶴岡はもっと発展するのではないか。昔、中学生が職場体験として会社に来たことはあるが、高校生が職場体験に来たかという、少なくとも私の会社には来なかった。半導体という最先端の技術をやっている企業だったから、来ればすごく刺激になったと思う。今、中学校の生徒が研究生という形で入っているが、鶴岡は色々な技術を持った企業が沢山あると分かれば、高校生が地元に残る会社も出てくるだろう。企業間の異業種交流という言葉が流行った時代もあるが、昔は会社間の発表会をこのホールでやったこともあって、色々な企業が特徴を活かしながら発表会をやっていた。色々な気付きや発見があったりしたので、企業をいかに利用するかということも大切なキーポイントになる。企業を見ることによって、人が育つ。企業も人を育てることが一番大事だ。私が高校生の頃は、進路を悩んでいたときに先生にいっぱい指導してもらった。今の高校生は、自分の目で自分の判断で好きな道に進める。おのずと外に出ていっても、帰ってくるのではないかと思う。

《委員長》

- ・そろそろまとめに入りたいと思う。

＜アドバイザー＞

- ・今日、あくまでも、アドバイザーとして素案を出させていただいて、委員の皆様からご意見いただけた。

《市長》

- ・大変、闊達な議論をいただきありがとうございました。今日の議論は、非常に重要な会議だと思った。鶴岡市長になって、新しい総合計画を今年度から取り組んでいる。総合計画の中で、若者、子育て世代に選ばれるまちにしていきたいというプロジェクトを掲げている。行政も民間も、同じ絵をみながら、役割分担をしていくことが非常に重要で、同じ若者世代に選ばれるまちといったときにも、見る絵が市役所の部署でも少しずつ違い、それが仕事のロスにも繋がる。街中の同じ絵を共有することは難しいことだが、仕事を進めていて非常に重要なことだと感じている。
- ・ラグビーワールドカップで日本代表がトライを決めるときに、倒れながらパスを繋げることができるのは、選手が同じ絵を見て連動して動いているからだ。
- ・その観点から中山アドバイザーからご提案があって、皆様方から違いはあったかと思うが、高校生、令和の藩校というのを委員会の議論の1つのターゲットにしていることについて、それは絶対に違うという意見は無かった。これは同じ絵を見て、行けるんじゃないかという風に思った。高校生をターゲットとしたからといって、高齢者は対象ではない、観光は関係ないという訳ではないということも理解出来ただろうと思う。鶴岡では令和6年には中高一貫校が開校し、4つの高等教育機関が集積しているという特色もある。高校生をターゲットに絞っていくと、それに関連する取り組みをするというのが、非常に分かりやすい「同じ絵」になるんじゃないかと思う。
- ・中山先生に施設が老朽化しているとか、具体的な課題を抱えていることをどうしていくか、建物をどうするかというお話をしたら、先生方から、プロジェクトベースで考えていく。また、中山先生からはソフトから変えていくんだというお話をいただいた。ソフトから変えていく際には、デジタル化が必ず繋がってくる。デジタル化の話で繋ぐという話があったが、鶴岡市は東北で一番広いものだから、旧町村と繋いでいく上でこのデジタル化がやはりキーワードになると思う。
- ・最後に、上野委員からどんなスケジュールで、どのくらい裏付けがあるのかということになるのだが、これは何をやっていくかで全く違ってくると思う。高校生をターゲットとして、何を仕組んでいくか。かつてであれば、私が「図書館をつくります」といえば、そういう感じで進めることも出来たのかもしれない。図書館を商店街と連携するという話もあった。これから、3回目の議論が予定されているが、高校生との関係性も具体的にどう進めていくのか、取り組んでいく必要がある。施設の老朽化は、私共も直面している課題である。西館、東館ともに、空調をどうするか等色んな問題に直面している。FOODEVERも継続できるのかという課題もあった。そういったことも念頭に置きながら、今日いただいた同じ絵を見ていくための取っ掛かりになる会になったと思う。他の駅前整備とは質が違う整備になると思うが、事務局が十分に情報収集しながら、委員の皆さんがさらに闊達な議論をできるように準備する。よろしくお願ひしたい。

《委員長》

- ・以上で予定している議題は終了する。事務局からは最後に委員長総括してほしいとの話があり、以下簡単にまとめます。
- ・まず、会議録については議長確認として事務局と作成したい。
- ・素案の高校生をターゲットにすることとデジタル化という視点に関しては異論がなかったが、「それを仲立ちして、駅前地区を庄内の歴史・文化・伝統の継承の拠点として充実してほしい」、「駅前市外からの来客を迎える玄関口であり、工業団地との

関係も重要」、「市の中心部との繋がりも重視してほしい」等の問題提起があった。

進行：事務局へ

4. その他

… 意見・質問等なし …

5. 閉会

・都市計画課長による閉会宣言